

LandXML1.2 に準じた 3次元設計データ交換標準（案）に沿った作成手順

◆ 点群から作成した現況地形サーフェスデータを出力する場合

① 現況地形サーフェスデータの作成

点群を読み込み、リボンメニューの[三角網]から三角網を作成



② 出力

リボンメニューの[ファイル]-[書込み]-[外部ファイル]-[LandXML]を実行

「LandXML1.2 に準じた 3次元設計データ交換標準（案）に準拠」のチェックを ON、バージョンと事業段階を選択して確定し、出力先を指定する

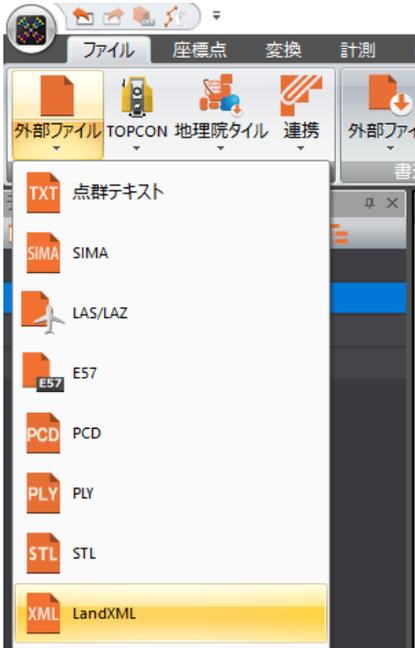


③ 作業完了

◆ LandXML ファイルを読み込み、属性を保持したまま出力する場合

① 読み込み

リボンメニューの[ファイル]-[読み込み]-[外部ファイル]-[LandXML]を実行



② 出力

リボンメニューの[ファイル]-[書き込み]-[外部ファイル]-[LandXML]を実行

「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案）に準拠」のチェックを ON、バージョンと事業段階を選択して確定し、出力先を指定する

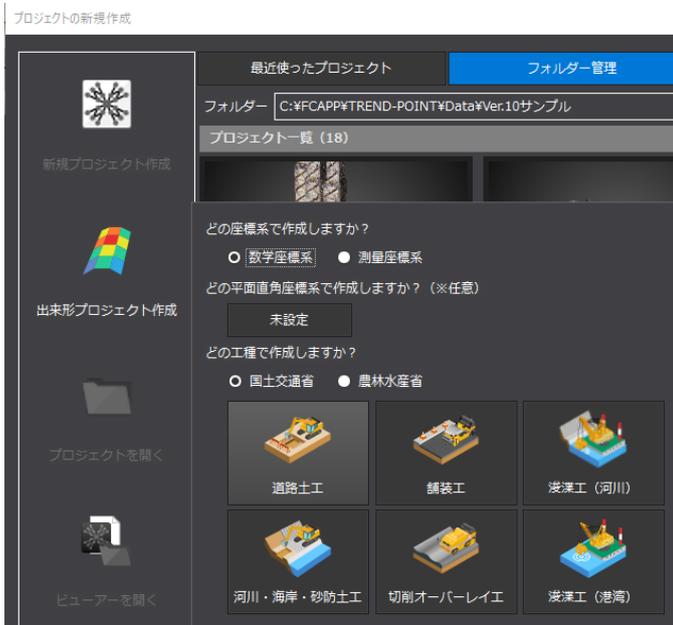


③ 作業完了

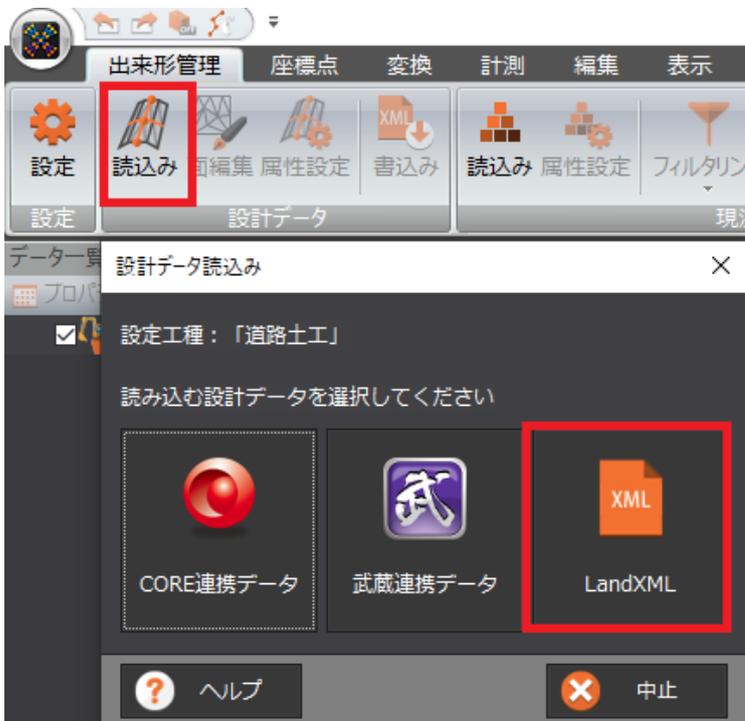
☆ i-Construction の出来形管理の場合

① 設計データの読み込み

プロジェクトの新規作成で「出来形プロジェクト」を選択

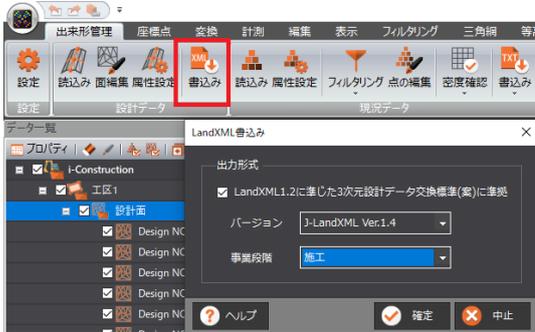


リボンメニューの[出来形管理]-[設計データ]-[読み込み]から LandXML ボタンを指定



② 書込み（設計データの場合）

リボンメニューの[出来形管理]-[設計データ]-[書込み]を実行

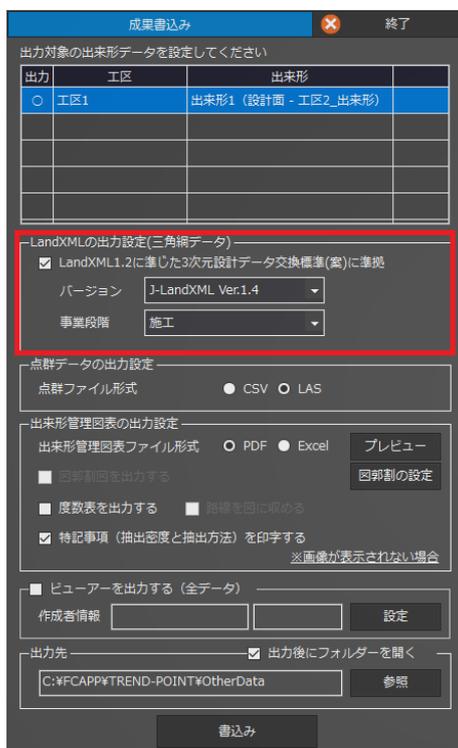


③ 書込み（出来形成果に含める場合）

現況データを読み込み出来形評価を実行ののち、リボンメニューの[出来形管理]-[成果]-[書込み]を実行



「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案）に準拠」のチェックを ON、バージョンと事業段階を選択して確定し、出力先を指定する



④ 作業完了